

**そ う ぜ ん じ 便 り**

19世俊諦和尚筆

第156号  
令和6年春彼岸号  
宗禪寺  
高井正俊  
宗派  
高井和正  
臨建長寺  
職弟  
中野滿子  
住徒  
羽村市川崎2-8-20  
TEL 042-554-1276  
FAX 042-578-3525

令和六年三月十九日(火)～二十一日(木)

午前九時～午後三時

観覧無料

# 第二十二回 春の文化展

[特別展「はむらアート2」]

水墨画・コール・ノートンさん 木工芸・五十嵐誠さん  
陶芸・並木貴以子さん 仏像彫刻・石田和雄さん

[地域の皆様による一般展示]

写真・絵画・書道・篆刻・オリジナル新聞・編み物・切り絵・陶芸

山野草・能面・水墨画・彫金・押し花・写真・フィッシュモーデル 他多数展示

※お彼岸の付け届けは同封の封筒の通りです。ご協力お願い致します。

※四月七日午後一時から、お釈迦様の誕生日「花祭り」法要執り行います。

※羽村や西多摩の文化に触れる土曜講座を毎月開催しています。ご参加お待ちしております。  
※彼岸中(三月十七日～二十三日)毎朝六時～七時半彼岸早朝坐禅会開催します。

◆ 宗禪寺俳句会 縁時記俳句

- 名札ある まだ物の芽の 見えて来ず  
■くれなゐに ほどけ初めたる 牡丹の芽 中野 つたえ
- 植え込みの 中に物の芽 そこここに  
■折れる枝 そる枝もあり 春の雪 中野 満子
- 地面つく 力を秘めて つぐづくし  
■幼き手 摘草しては 一歩二歩 雨倉 みよ子
- 暮れかけて 急がずに行く 春景色  
■春浅し 若き素足の 托鉢僧 平井 敏正
- 雛飾る 今年も会えた 御一行  
■介護する 友の横顔 春ショール 島田 陽子
- 路傍には 咲きほこりたる 春の草  
■柔らかな 春の光に うとうとと  
■かわたれに ぢこからとなく 梅匂う 平井 敏正
- 思い出や 吉野の里の 梅まつり 島田 実
- 沈丁の 匂へる夜道 出稽古へ 戸梶 功
- 靴紐を 結び直して 春の土手
- 沈丁の 匂へる夜道 出稽古へ 中野 良一

## 二月三日節分

### 豆まき会ご報告

二月三日に立春の節分を迎えて、宗禅寺でも四年ぶりに盛大な豆まき会を行うことができました。

宗禅寺の豆まきは、御来場下さった子供たち全員にひな壇から豆を撒いていただいています。四年ぶりということで、子供たちが来て下さるか心配をしておりましたが、土曜日ということもあってか、本当にたくさんの皆様にご来場をいただき、福を持ち帰つていただけたと思います。また、今回は地元仏教会の西東京臨済会の災害支援部の皆様が被災地支援の物販を行つて下さり、たくさんの皆様が被災地支援のお気持ちを下さりました。

節分の豆まきは日本の風物詩ですが、多くの子供たちにご参加をいただき、日本の伝統行事が次の世代に繋がつていって下さればとも思います。

盛大なる節分会を開催するにあたり、朝からお骨折りをいただきましたお寺の総代さんを始め、サンガの会や薬師講中の皆様に感謝を申し上げると共に、立春節分祈祷の御札をお求め

下さった皆様にも感謝を申し上げます。

四年ぶりの開催となりました節分会でしたが、お陰様で事故もなく無事に終えることができました。深く感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。また来年お会い致しました。

しよう。

宗禅寺の豆まきは、御来場下さった子供たち

でした。

佛教ではお亡くなりになることを「涅槃」と表現していますが、涅槃寂靜ともい、原語は「消える」という意味で、煩惱が消滅する世界を指し、悟りの境地の意味でも使われます。

肉体的な消滅もですが、心の穏やかさを表す言葉としても涅槃は用いられ、ハープの音色でひと時の涅槃の時を過ごすことができたのではないかでしょうか。

太田さんはまた来年もお越しいただきたいくと思つております。皆様のご参加をお待ちしております。



多くの皆様のご来山をいただきました

## 二月十五節日涅槃会 お釈迦様ご命日 ハープの生演奏

二月十五日は仏教の開祖であるお釈迦様のご命日です。そのご命日に執り行われる法要を涅槃会といいます。



全身を使って奏でるハープ。太田さんはご自宅でハープとピアノを教えておられます。

奏者の太田博子さんにお越しいただき、ハープの生演奏をしていただきました。太田さんのお

心づかいで「ふるさと」や「上を向いて歩こう」など、歌詞もご用意していただき、ハープの旋律に合わせて参加者一同で歌う場面もあり、和やかな時間があつという間に過ぎてしまいま

## □能登震災救援托鉢ご報告

去る一月二十四日午前中に、羽村川崎地区と玉川地区にて能登地震救援のための托鉢を行いました。

今回の托鉢は西東京臨済会災害支援部「通称：臨坊（りんぽう）」の和尚様からお話しをいただき実施した托鉢です。

多摩地区の建長寺派の寺院が集まつている西東京臨済会という本山とは別組織の仏教会があります。その西東京臨済会に熊本地震をきっかけに災害支援部という組織が生まれました。直接被災地に入つての救援ボランティア活動や、被災地の名産品の物販を建長寺派縁故寺院の行事や近隣西多摩地域のだるま市などで行い、被災地支援をしている組織です。あきる野市雨間の地蔵院・渡辺光成住職と青梅市新町の東禅寺・滝本豊洋住職が中心となつて発足し、現在は在の方の多くのご参加もいただき活動を続けておられます。元々は雨間の地蔵院様が東日本大震災を契機に本山建長寺のご支援をいただき「スマジャータプロジェクト」として被災地支援の活動

を始めたのが最初なのですが、地元である多摩地域を元にした活動をしたい願いもあり、西東京臨済会が母体となつた経緯があります。

当日は、地蔵院様の呼びかけに近隣多摩地域のみならず、相模原や秩父、山梨県からも建長寺派有志の和尚様が集まつて下さり、雨間、新町、羽村の三ヶ所で托鉢を行いました。

宗禪寺の川崎・玉川地区の檀信徒皆様におかれましては、突然のハガキでのお願ひだつたにもかかわらず多くのご喜捨を賜り、誠にありがとうございました。また、節分の豆まき会でも災害支援部の皆様が被災地の物販を行い、たくさんの募金をいただきました。重ねて御礼を申し上げます。

### ○羽村地区 能登震災救援托鉢ご喜捨

一、金 二三万七六五四円 也  
○宗禪寺節分会 被災地支援物販募金箱  
一、金 二万八二七五円 也

以上

被災地の救援のため大切に使わせていただきます。



網代笠、脚絆、草鞋と伝統的な威儀での托鉢です。川崎地区と玉川地区を回りました。



雨間の地蔵院様をはじめ7名の和尚さんが集まつて下さいました。  
出発にあたりご本尊様にご挨拶の読経。

□能登地震臨坊（リンボ）  
能登町炊き出しご報告

一月二十四日の托鉢にてお預かり致しました皆様からのご喜捨を活用して、二月四日から七日まで（炊き出し本隊は八日まで滞在）石川県能登町で炊き出しを行つてまいりました。

○二月四日（日）

午後に青梅市新町東禅寺様に集合。各所からお預かりしている救援物資（野菜、卵、ホツカイロ、洗濯機他）と炊き出し道具、材料をトラックに積み込む。今回は現地にて使用してもらう重機も持つていぐとのこと。トラック二台、自家用車一台、六名にて夕刻出発。現地での合流の方も含めて総勢九名での炊き出し活動。富山県砺波にて宿泊。



トラック一杯の物資を荷下ろし。

○二月五日（月）

朝砺波を出発。能登半島の高速道路は未だ全線開通していない。七尾から下道へ降り、まずはガソリン補給。インター降りると屋根にブルーシートを貼っている家屋が見え始める。昼食の買い出しに立ち寄ったコンビニは配管が壊れており、トイレの使用が不可となつていた。

北に進むにつれ、救急車、消防車、パト

カー、自衛隊と多数の緊急車両とすれ違う。いずれも県外から応援に来ているよう。神戸、警視庁、鹿児島、香川と様々。道路も崩れている箇所多数。

人分のこと。

昼前に現地に到着。今回の炊き出しは災害支援専門の一般社団法人「オーブン・ジャパン（以下OJ）」様からの伝手で石川県能登町に入った。OJは被災地に常駐して支援活動をされている一般社団法人で、



避難所となっている中学校での炊き出し。  
66名の方が避難生活をされているそうです。

臨坊が熊本地震以来、支援活動の窓口や情報提供をして下さつていい団体。今回の炊き出しに際してもOJのベースキャンプ地を間借りすると共に、行政側とのパイプ役となつてくれ、炊き出しする場所の調整をして下さつた。まずはトラック一杯持ち込んだ支援物資を現地の倉庫に搬入する。

ベースキャンプ地は某公共施設。駐車場



博多山笠湯。  
福岡からの自衛隊さんによるお風呂の提供。

に調理場を設営。能登町は八割が断水しているとのことだが、OJさんによる仮設の給水タンクが設置してあり調理に使用する水は何とか確保できそう。

夕刻からは翌日の炊き出しの仕込みを始める。翌日の炊き出し場所も決定。昼食夕食共に車で二十分ほどの避難所となつている中学校と公民館の二カ所で合計百

## ○二月六日（火）

朝のOJさんのミーティングに参加。二十代～四十代の若いボランティアの皆様が十五名ほどいる。他に我々と同じように臨時の炊き出しボランティアさんも。高齢者が多い地域だけに、若い労働力が一番必要な場所なのかもしれない。

朝の準備に手間取る。予定より遅れて中学校へ。公民館の炊き出しはキャンセルとなり、中学校の避難所のみとなつた。まずは調理場所の確認。そして調理用の水の確保。調理場は相撲部の土俵のある稽古場だつた。土俵にはブルーシートが全面に敷かれていた。

東日本と熊本の災害支援活動に参加したことはあつたが、避難所に訪問するのは初めてのこと。体育館に段ボールのベッドと衝立。想像していた以上に体育館の中は暖かい。ただ、衝立は低くプライバシーは確保されているとは言い難い状況。避難所の運営は全国自治体から応援の職員さんが交代で来て対応しているようであつた。こここの避難所は滋賀県庁さんと宮城県女川町さん職員。宮城県は県内自治体が交代で能登町に職員を派遣しているらしい。

避難所の中学校一階は医療所として活



中学校での調理場は相撲部の土俵がある稽古場でした。



病院での医療従事者さんへの炊き出し

用されていた。町の開業医さんの臨時のクリニックが併設されている。トイレももちろん仮設。学校入口には福岡から自衛隊が来ていた、仮設のお風呂を提供していた。

この日はお昼にけんちん汁と肉まんとみかん。夜はカレーライスとサラダを提供。基本的に避難所の食生活はレトルトが中心のようで、特にけんちん汁のたっぷり野菜が喜ばれる。終わって、ベースキャンプに戻り、翌日のメニュー相談と仕込み。OJさんから翌日はお昼には病院百人分。夜には集会場で三十人分と炊き出し場の連絡をいただく。

昨日は避難所での調理。今日はベースキャンプで調理したものを持ち帰った。現場で現地に運搬し提供するスタイル。お昼の場所は車で十分ほどにある病院とのこと。下見も兼ねた第一次で食器などを運搬。病院の二階の一室にて料理を提供して欲しいとのこと。

アクシデントもありつつ、準備は予定通りに進めることができ、病院へ。行ってみると、いわゆる医療従事者さんへの炊き出しでした。お医者さん、看護師さん、医療事務さんなど、地域の医療を支えてくれている皆様。肉まん、けんちん汁、肉団子とゆで卵の煮物、甘酒、みかん。お昼のつかの間、皆さん喜んで下さつた。甘酒も好評で大きなペットボトルを持って来て、持ち帰る方

## ○二月七日（水）

昨日は避難所での調理。今日はベース

キャンプで調理したものを持ち帰った。

現場で現地に運搬し提供するスタイル。

お昼の場所は車で十分ほどにある病院

とのこと。下見も兼ねた第一次で食器を

運搬。病院の二階の一室にて料理を提

供して欲しいとのこと。

アクシデントもありつつ、準備は予定

通りに進めることができ、病院へ。行つて

みると、いわゆる医療従事者さんへの炊き出

しでした。お医者さん、看護師さん、医療事

務さんなど、地域の医療を支えてくれてい

る皆様。肉まん、けんちん汁、肉団子とゆで

卵の煮物、甘酒、みかん。お昼のつかの間、

皆さん喜んで下さつた。甘酒も好評で大き

なペットボトルを持って来て、持ち帰る方

も。

お昼の炊き出し後、ベースキャンプに戻つて夜の炊き出しの支度。湯葉巻うま煮、温野菜、カレー、けんちん汁。ただ、私どもうち一方はこの日までの参加。午後三時半過ぎに現地を出発し、帰路へ。現地に持ち込んであつた福生交運社様の炊き出し用キッチンカーを運転して帰路に就く。残つた本体も七日の夕食の提供を以つて能登町を離れる。富山に一泊し、八日朝一番にて高岡にある同じ臨済宗の大本山である国泰寺様に救援金と物資をお届けし、今回の炊き出しは全て終了致しました。



8日に富山県高岡の大本山国泰寺様に救援金と物資をお届け致しました。

## らいむぎハウス 「くれよんの会」 の活動について

高井綾子

皆様、いつもお世話になりましてありがとうございます。「リアルでらこや」は娘の瑠璃花、花音の付き添いという形で参加を始めました。が、私自身もひとと関わることが好きで、すぐにリアルでらこやのスタッフの皆さん、ボランティアの方々、子ども達の、様々な方の協働する活動のとりこになりました。「子どもたちのため」に楽しい企画を考えたり、安全に配慮した場所を提供することは勿論ですが、「子どもたちのため」という導入がひいては、周囲の大人の為、子どもの家族の為、そして何より私自身のためになつていることが沢山あるということに毎回気づかされています。子ども達の笑顔のために何をすべきか、手を出すことは簡単でも、それを我慢して子どもたちが自ら気づき、考える姿勢を見守ることの難しさ、大人のものさしで子どもを測ることの危うさ、対大人では通じるニュアンスや表現でも子どもに伝わる言葉を考える必要性、すべて

が学びです。また、子どもにとつて居心地がいい場所、わかりやすい言葉づかいは、すべての人にとっても安全で安心できる場所ではないかと考えます。

その「安心できる居場所」として「リアルでらこや」の運営母体であるらいむぎハウス代表の水嶋さん、スタッフの喜多代さんと企画したのが「くれよんの会」です。僭越ながら代表をさせていただいております、「くれよんの会」ですが、当初は子育てをするお母さんが悩みを共有したり愚痴をこぼせる居場所として、育児が孤育てにならないようみんなで考えたりアイデアを出しましようという視点から始まりました。一年が経ち、参加して下さる方を子育て中のお母さんに限定していくところをなくし、子どもがいるいないや、結婚をしているいないに捉われず、家族のこと、友人のこと、仕事のこと、そして一番大切な自分自身のこと、話をしたい人、聴きたい人であれば、どなたでも参加して頂ける会にしました。活動の内容は平日の午後一時から三時を目安に、みんなの家でお茶やお菓子を囲みながら、その日の参加者の方から発信される相談や情報交換の場として活用して頂いています。「この近くに耳鼻科はありますか?」「うちの子どもはまだ幼稚園なので小学校のことを具体的に知りたい

です」「友人と意見が合わない時はどうしていきます?」といった身近な病院探しの話しから人間関係の話まで内容は多岐にわたり、参加者の程よい距離感、幅広い年齢層、その場での会話は原則口外しないという約束のもと、様々な参加者の方がその人にあつた使い方をして頂いています。参加費はありません。予約の必要もなく、都合の合う時間に来たり帰ったりと時間的な制約も自由です。代表とはいえ私の相談に対するアドバイスを参加者の方から頂くことも少なくありません。誰かが誰かの為に考える、誰かに寄り添おうとする、その温かさに毎回感謝しております。また、私自身、精神保健福祉士として約十年ほど精神科医療の現場や精神障害のある方の生活支援の現場に携わった経験を活かし一対一の個別相談や精神的な不調に関する相談を承ることも可能です。その場合は予約をお願いしています。

クレヨンに沢山の色があり、その一つひとつが美しく世界を彩る大切なものであるように、様々な方が自分らしくいられる場所、自分を大切にできる場所、安心感を得られる場所として今後も活動していくたらと思います。

## 【二胡と朗読の奏で】開催告知

お彼岸明けの三月三十日に中国の弦楽器である二胡の演奏に合わせた朗読を聽ける集いを開催致します。

二胡は中央アジアにルーツを持つ中国の伝統的な弦楽器です。女子十二樂房という有名な中国人演奏グループの存在もあり、広く知られています。今回の集いは二胡の旋律に合わせて朗読をして下さるそうで、ゆつたりとした空間になります。

今回の集いは二胡の旋律に合わせて朗読をして下さるそうで、ゆつたりとした空間になります。

### 【二胡と朗読の奏で】

○日 時 三月三十日(土)午後一時より

○出 演 朗読：古澤寿実さん

○演 題 芥川龍之介作『杜子春』ほか

○参加費 五百円にて

○問い合わせ

090-15810-0391 古澤寿実  
Roudoku.kotohogi@gmail.com

朗読ことほぎ

※ご参加のご予約はご不要です

## お釈迦様誕生日 花祭り法要開催の御案内

四月八日はお釈迦様の誕生日です。

今年の花祭りは、御来場の皆様と一緒に大般若經の転読を行います。写経会の皆様が書写して下さった經典六百巻が宗禪寺にござります。その經典を一緒に転読し、功德をいただきたいと思います。皆様のご参加をお待ちしております。

### 【宗禪寺花祭り法要】

○日 時 四月七日(日)午後一時から

○参加費 お賽錢にて

○式次第

- ・健康体操
- ・般若心經讀誦
- ・鎌倉流御詠歌奉詠
- ・大般若經転読
- ・甘茶とお菓子で茶話会  
(どるちえの歌と演奏)

※ご予約ご不要、檀信徒以外の皆様もご参加できます。

※お寺で催しをしている各会の皆様は是非、ご参加下さい。



## 年忌にあたる御靈位

コロナへの規制も緩和され、普段通りのご法要が出来るようになります。法要後、お寺の賓殿での会食もできます。  
ご供養の形は、ご自宅、墓前、塔婆のみの墓参で可能ですので、まずはお寺にご相談下さい。皆様の形で真心を表すことが大事です。

### ◆年忌靈位（本年四月～七月まで）

ご命日に毎朝お経をお唱えして供養をしています

### 一周忌　令和五年ご逝去

	御命日	故人御芳名 (敬称略)
七月	四月四日	渡邊秀人
六月	四月四日	中野マサ
五月	四月四日	杉本洋二
四月	四月四日	大野聰
三月	四月四日	笠嶋公之
二月	四月四日	武末昭子
一月	四月四日	荒井洋二
十二月	四月四日	中込中野
十一月	四月四日	井上慎久
十月	四月四日	下ノ堀司朗
九月	四月四日	島田タヨ子
八月	四月四日	島田彌恵子
七月	四月四日	中野興紀
六月	四月四日	木下磯貝
五月	四月四日	吉田朱梅
四月	四月四日	中根海老原
三月	四月四日	木下隆増
二月	四月四日	吉田ヨシ
一月	四月四日	木下悌子
十二月	四月四日	京子宗一郎
十一月	四月四日	布施傳治
十月	四月四日	清水持田
九月	四月四日	田村吉田
八月	四月四日	山崎卯三郎
七月	四月四日	吉田信子
六月	四月四日	吉田信子
五月	四月四日	吉田雅之

### 七回忌 平成三十年ご逝去

七月	四月四日	秋山寿々
六月	四月四日	小林ウメ
五月	四月四日	平井忠
四月	四月四日	武田義二郎
三月	四月四日	大野淳子
二月	四月四日	石川喜久枝
一月	四月四日	出山淳一
十二月	四月四日	中根秋山
十一月	四月四日	伊東長吉
十月	四月四日	山田朝子
九月	四月四日	中村シズ江
八月	四月四日	秋山悦江
七月	四月四日	土屋精次
六月	四月四日	船木シズ江
五月	四月四日	原島タケ
四月	四月四日	山田夕ヶ
三月	四月四日	新井喜馬
二月	四月四日	石井フミト
一月	四月四日	島田渡邊
十二月	四月四日	中野忍
十一月	四月四日	青木利子
十月	四月四日	木下正治
九月	四月四日	島田永次
八月	四月四日	島田好明
七月	四月四日	青木工子
六月	四月四日	島田之夫
五月	四月四日	島田雨倉
四月	四月四日	島田後藤
三月	四月四日	島田青木
二月	四月四日	島田正藤
一月	四月四日	島田紫郎

七月	四月四日	秋山弘
六月	四月四日	市川英夫
五月	四月四日	山田由紀子
四月	四月四日	登坂マサ子
三月	四月四日	小野寺ケイ子
二月	四月四日	田村ジゲ
一月	四月四日	中根タヨ子
十二月	四月四日	島田益次
十一月	四月四日	清水八日
十月	四月四日	二十三日
九月	四月四日	二十六日
八月	四月四日	二十七日
七月	四月四日	二十八日
六月	四月四日	二十九日
五月	四月四日	三十日
四月	四月四日	三十一日
三月	四月四日	三十二日
二月	四月四日	三十三日
一月	四月四日	三十四日

### 十七回忌 平成二十年ご逝去

七月	四月四日	中村博
六月	四月四日	本間四郎
五月	四月四日	山本ミヨ子
四月	四月四日	氏井音治
三月	四月四日	鈴木千代子
二月	四月四日	中村マサ子
一月	四月四日	尾澤紀明
十二月	四月四日	真中八重子
十一月	四月四日	馬場久子
十月	四月四日	馬場定一
九月	四月四日	横田クニ子
八月	四月四日	中野玲子
七月	四月四日	中野トクネ
六月	四月四日	武田政衛
五月	四月四日	高橋忠吾
四月	四月四日	岸田綱代
三月	四月四日	山岸建男
二月	四月四日	串田博
一月	四月四日	高橋吉野
十二月	四月四日	清水柿
十一月	四月四日	吉野昭八
十月	四月四日	佐藤カク
九月	四月四日	佐藤幸
八月	四月四日	佐藤英
七月	四月四日	佐藤英
六月	四月四日	佐藤英
五月	四月四日	佐藤英
四月	四月四日	佐藤英
三月	四月四日	佐藤英
二月	四月四日	佐藤英
一月	四月四日	佐藤英

### 三十三回忌 平成四年ご逝去

七月	四月四日	永岡家
六月	四月四日	中野常作
五月	四月四日	佐々木ハツ
四月	四月四日	野口龍之助
三月	四月四日	倉島長吉
二月	四月四日	佐藤正作
一月	四月四日	佐藤明彦
十二月	四月四日	佐藤忠一
十一月	四月四日	佐藤彦
十月	四月四日	佐藤彦
九月	四月四日	佐藤彦
八月	四月四日	佐藤彦
七月	四月四日	佐藤彦
六月	四月四日	佐藤彦
五月	四月四日	佐藤彦
四月	四月四日	佐藤彦
三月	四月四日	佐藤彦
二月	四月四日	佐藤彦
一月	四月四日	佐藤彦

## 宗禪寺觀音募金

令和5年12月1日～令和6年2月29日まで

皆様からの募金、お賽銭をこのように使っています。ご協力ありがとうございます。

**繰越 2,000円**

**収入 43,000円 除夜の鐘**

**55,000円 お賽銭**

**支出 90,000円**

内訳 30,000円 臨済宗大本山国泰寺様  
30,000円 石川県令和6年能登半島地震災害義援金様  
30,000円 一般社団法人OPEN JAPAN様

**繰越 10,000円**

# 文庫長だより 島田 秀男

(9)

## そ う ぜ ん じ 便 り

「さいくら」とは、競売のことです。「さあーいくら・・・」という言葉がなまつたもので、羽村独特の用語といわれています。

西多摩村は明治時代の終わりから大正期にかけて、養蚕の全盛時代でした。このころの養蚕について青年団報第一五号（大正六年五月）は、「寒月生」のペンネームで、次のように記しています。

「大正五年に於ける本村蚕業の総収入は、春秋を通じて金二十五万円也と承り候、人口四千の本村にてこの収入あり、この割合にて人口七千万の日本全国よりの計算をせば、四十五億の生糸を産することとなり候、而るに大正五年の全国生糸産出高は二億五千万円に過ぎず、以て本村が如何に養蚕村なるかを知るべしと存じ候、恐らくは一村としては日本第一なるべく、日本は世界第一の生糸産出国なれば、本村は世界第一の生糸産出村となるわけに候」と西多摩村の養蚕最盛期の様子を伝えていきます。

しかし、昭和四年（一九二九）になるとアメリカ向け輸出生糸の価格が下落し、繭価が一貫目あたりの値段が高額であった時期の半値近くになつて養蚕農家に大打撃を与えました。

養蚕が好景気であつたときには、養蚕農家は銀行から借金をして蚕室を建て替えたり、新

しい用具を取りそろえたり、製糸家は工場を増築したり、機械を近代化するなどの設備投資をしました。繭価の暴落は、それらの農家を直撃し、借金の返済が滞る状態になりました。

西多摩村の負債額は、昭和八年（一九三三）で養蚕農家約六〇〇戸に一五〇万円、一戸あたり平均二五〇〇円になりました。近隣多西村では一戸あたり平均一六〇〇円、東秋留村では一戸あたり平均九九五円で、西多摩村の負債はいかに多額であったかがわかります。

養蚕農家は、借金返済のために、家の資産を競売にかけて、借金を返そうとしたのです。それを「さいくら」と呼びました。この時期、羽村では「さいくら」が頻繁に行われていたようです。

羽村の間坂にお住まいだった羽村純偉さんは、自分の家で行われた「さいくら」について手記を書いています。その手記から当時の様子を見てみます。

羽村さんはこの「さいくら」で一番印象に残つたのは、せり落とされ代金済の盆栽や庭木がそのまま残されてたり、門のところには今後も必要であろうからと自転車が置いてあつたりしたことであつたと語っています。

それらの競売品は、はじめから競売人が安い金額で落とさせたようだともいつています。

工場の倒産と財産の競売という悲惨な状況を思い浮かべますか、この「さいくら」は近所の方々や競り落としてくれた人々の温かい気持ちが伝わってくるような気がします。

現代は近所との関係性が非常に希薄化していますが、「さいくら」が行われていた当時のような濃密さはないにしても、相互扶助的な共同体のまとまりは必要ではないでしょうか。

「さあーいくら・・・」。

『参考文献』『羽村春市生誕一三〇周年記念集』

『秋川市史』

高井正俊

宗禪寺の法事  
法事をしましよう

住職 高井正俊

今日は法事のことを学びましよう。結論は「法事をしましよう」です。法事をすると自分が生きていることの意味・生かされていることのありがたさを自分で感じ、解るようになります。

亡くなられた人を偲び、感謝の気持ちを表すために、一周忌・三回忌・七回忌・十三回忌・十七回忌・二十三回忌・二十七回忌・三十三回忌と法要を行います。

宗禅寺では、どのように法事をしているのかを、檀信徒の皆さんにお伝えします。

初めに「宗禅寺入山心得の五箇条」を皆で唱えます。「ひとつ、花や鳥、ものの命を大切にしましよう」から始まって、五箇条を皆で唱えて、お寺は何をする所かを確認します。

次に「般若心経」を皆で唱え、お釈迦様の教えを皆で学びます。自分の行うた善根功德をお釈迦様に伝え、教えを学び

ます。お釈迦様は、ひとりひとりの人間の素晴らしさを発見し、自分の眼で明け明星を見て、お悟りを開きました。私たちもお釈迦様と同じように「自分の眼」を持つています。その眼を使って素晴らしい世界を発見します。又、眼だけではなく、耳も口も鼻も手足も心もあるのですから、それをていねいに使わせてもらいましょう。そして四恩に感謝をし、ありがとうございます。四恩は仏法僧、父母、衆生、地球です。私たちの命は直接的に父母からいただき、衣食住の命によって支えられています。私たちは自分の命を活かしてくれたあらゆるものにありがとうございます。感謝の気持ちを表し、自分の存在を使っておかえしをすることが大事です。それをしっかりと学びます。

法事は亡き人のためにするのですが、それをすることによって忘れていた自分の事、役割に目覚める機会です。

日常の生活は実に忙しく、いろんな事への対応に追われてしまいますが。法事をすることによって、本当の自分に出会いましょう。

法事をしないと、この体験は出来ません。皆様にこの体験を味わっていただきたく、今、思案中です。

にし、自分の本当の心を自分で見ることによって、「現実の自分に対処していくのです。亡くなった人を通して、自分の存在の役割に目覚めることです。

連続掲載  
詩集『春の旅人』

今号より詩の定期連載を始めます。

作者は島田博雄さんという方です。島田さんは羽村の川崎に生まれ育ち、長年学校の美術教師をされる傍ら絵の創作活動も続けておられました。昨年秋に銀座で個展を開催され、竹馬の友である住職が表敬訪問し数十年ぶりに再会を致しました。その折かつて出版された詩集をいただきました。亡きお母様への想いを綴つた『春の旅人』という題名の詩集です。

まずはここにご自身によるあとがきを掲載し、島田さんが詩集を綴つた想いを感じていただければ有り難いです。

【『春の旅人』あとがき】

母が死んで七年が経つた。供養のためにと書きためた詩が十五編。詩というのもこころもとなく、ひとまえに出すのもはずかしいが、にぎやかなのと人間が好きだった母なので、たくさん的人に読んでいただくのも供養になるかも知れない。母とくらした年月の中で、おもいではむろん無数にあるのだが、それはなかなか詩にならないのだった。母とのおもいでを詩に書くには、もつともっと時間が必

要なようだ。

小さいころの母の記憶は、家事と畠仕事で朝から夜まで立ち働いていたすがたである。復員兵の父は、現金収入を得るために近くの進駐軍基地に働きにいつていから、畠仕事はほとんど母がしなければならなかつた。すでに子供は、私と妹二人と弟の四人になつていた。一家が生きていくためには、しゃにむに働く以外なかつた。小学校から帰ると、私はやかんにお湯を沸かし、売りだされてまもないチキンラーメンとどんぶりをふろしきに包んで、母のいる畠まで持つていつた。

母はそれを食べると、また日がくれるまで畠仕事をするのだった。

働いて働きつづけて、よたよたと貧しい戦後を走つてきた。それが母の半生だつた。私はあまりよい息子ではなかつた。しかし、もうその借りを返すことはできない。

生きているうちに肩でもたたいて、がんばつたなつて言つてやりたかつた。母よ、ゆつくり休んでくれ。

今、母は故郷の宗禅寺の先祖代々の墓で眠つてゐる。

『大島』

母は機を織つています

早春の陽ざしが

障子を透いて

部屋をあかるくしています

母の織る大島は

仕上がりがていねいで評判よいと

機屋が言うのです

カタングユルル カタングユルル

機を織る音が響きます

嫁いだ日から

この部屋で

何反の大島を織つたのか

機を織る貧しさよ

つめたくかじかむ

ひびわれた百姓の手で

あなたたは

〈つう〉のよう

機を織るのです

（けれども

（あなたの機の音は

（なんとも楽しい

（手ばかりでなく

（からだ全体で織つてゐるのだな

（無心で

（機そのものになつて

（カタングユルル カタングユルルと

（うん

（楽しいね

（カタングユルル カタングユルル

（カタングユルル カタングユルル

島田博雄著詩集『春の旅人』より

（11）

# 寺門清風 正俊記

令和六年

除夜の鐘三五〇人の来山。薬師講中二十人との協力でドラム缶二つのたき火、羽村の酒粕の甘酒。暖かい晩で順調に終わり、年越しそばを食べて新年を迎えるました。

へ一月

- 水族館劇場の“野外劇”が境内で。後、新年会開催。彭丹さん参加。
  - 総代さんへ年頭の挨拶に行く。寺ヨガ本堂で十五人。年始の方来山。
  - 三年ぶりに寺で総代さんご夫妻を招いて新年会。本堂で厳粛に諷経。
  - 朝六時から朝粥坐禅会十人。
  - 孫二人、昨日はお飾り集め、今日は河原でどん焼き。少しずつ大人に
  - 新町“順心眼科”眼快方に向かう
  - “リアルでらこや”もちつきで大眠わい。隠寮で“新聞サロン”、客殿で“一部平家”。
  - 平曲の会始まりました。なんと三十人の来山。禅センターでは“木彌教室”。夜は禅堂で坐禅会。
  - 平曲を聴く会、客殿で一時～四時。薬師講役員新年会、本堂で諷経をして、書院で三年ぶりのアンコウ鍋。
  - 湯島麟祥院で臨済録勉強会。
  - 庫裏の大々的な片付けに着手。とにかくやる。和正分、私分、綾子分と、今年の大テーマ。
- |        |        |        |       |       |       |       |        |        |        |        |        |        |        |        |
|--------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1 / 15 | 1 / 14 | 1 / 14 | 1 / 7 | 1 / 3 | 1 / 4 | 1 / 6 | 1 / 22 | 1 / 24 | 1 / 25 | 1 / 26 | 1 / 27 | 1 / 28 | 1 / 29 | 1 / 19 |
|--------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|

何日かかるか。

1 / 18

打ち上げ。関係を含め、六百人の大盛会。

2 / 3

- 順心眼科へ。視力0.5に。次は一か月後。客殿、台所玄関・物入れ改修ほぼ終了。梅林棟梁父子大活躍。

1 / 19

- 朝粥坐禅会、朝六時から九時。三時、春の文化展打ち合わせ二十七人。今年はやります。

2 / 4

- 客殿台所玄関入口、丹波山村の“ヤマザキ土操など。瀧島忠典“西多摩を元気に”。夜、土曜坐禅。

1 / 20

- 禅センターで将棋教室、写経の会。
- 西東京臨済会。能登救援托鉢。川崎など。御支援ありがとうございます。
- 大片付け継続中……。

1 / 21

- 佐藤秀孝先生、駒澤大学最終講義へ。懇親会にも。多くの人と会う。
- 写経の会。平曲の会と。
- 健康体操。みんなの家で十人。

2 / 9

- 臨済録を学ぶ会、湯島麟祥院。五日市広徳寺閑柄和尚、賊に襲われる。
- 今日はお釈迦様の亡くなつた日。法要、御詠歌、太田博子さんのハープを堪能。三十人。

2 / 11

- 西東京臨済会。新年総会で昭島車屋へ。若い和尚さん達に期待しています。
- 鎌倉禅研究会で円覚寺へ。小川隆先生、横田南嶺管長、百人越える参加。
- 西東京臨済会。新年総会で昭島車屋へ。若い和尚さん達に期待しています。

2 / 12

- 二月の土曜講座。イス坐禅、園部多恵子さんヨガ。ヴィンヤード多摩・中野多美子さん、羽村市農家の石田武尚さんのワインとぶどう農業のお話し。三千五人で大盛況。
- 鎌倉のカヤツク柳沢大輔さんの誕生日生前葬で大船へ。五十人。

2 / 15

- 建長寺で“鎌倉・食を学ぶ会”鎌倉野菜の建長汁を食べよう！。一〇三人の参加者。川崎からも四人。途中から、京都、建仁寺小堀管長の新年会へ。淑子さんと仲間で一泊。翌日、管長表敬訪問九人。祇園丸山で一献。宗禪寺では写経の会八人。

2 / 16

- 御詠歌、お経、豆まき、かつぼれ、本堂から子供の豆まき（三百人）大人の豆まき、そして客殿で年取りの宴。今年からイス席に。六時

2 / 17

- 建長寺で“鎌倉・食を学ぶ会”鎌倉野菜の建長汁を食べよう！。一〇三人の参加者。川崎からも四人。途中から、京都、建仁寺小堀管長の新年会へ。淑子さんと仲間で一泊。翌日、管長表敬訪問九人。祇園丸山で一献。宗禪寺では写経の会八人。

2 / 18

- 御詠歌、お経、豆まき、かつぼれ、本堂から子供の豆まき（三百人）大人の豆まき、そして客殿で年取りの宴。今年からイス席に。六時

2 / 19

- 令和六年、コロナ明け、寺は元気に活動を始めました。眼も快方に向かい、ひとまず安心。

寺族も頑張っています。

へ二月

- 節分支度、和正和尚、淑子さん大忙し。三日、女性サンガの会三十五人、九時、おにぎり、建長汁、折詰料理、ありがたい限りです。薬師講中四十人十時集合。節分祭、豆まき準備。四時御詠歌、お経、豆まき、かつぼれ、本堂から子供の豆まき（三百人）大人の豆まき、そして客殿で年取りの宴。今年からイス席に。六時

- 建長寺で“鎌倉・食を学ぶ会”鎌倉野菜の建長汁を食べよう！。一〇三人の参加者。川崎からも四人。途中から、京都、建仁寺小堀管長の新年会へ。淑子さんと仲間で一泊。翌日、管長表敬訪問九人。祇園丸山で一献。宗禪寺では写経の会八人。

2 / 20

2 / 21

# 宗 禅 寺 每 月 の 活 動

## —お寺で本当の自分に気づく—

- 朝 粥 坐 禅 会…… 每月第一日曜日 朝6時～8時 坐禅後に禅の食事作法に則ってお粥をいただきます。  
鐘を撞きながら般若心経読経。ご予約ご不要です。4/7 5/5 6/2 7/7
- 土 曜 坐 禅 会…… 每週土曜日 子供:18時～19時 大人19時半～20時半 足にご不安の方には、  
イス坐禅もございます。予約不要です。
- 彼岸早朝坐禅会…… 3月17日～3月23日毎朝6時～7時開催。朝の鐘を撞きながら般若心経を読経。  
読経後坐禅。参加費無料、ご予約ご不要です。
- 土 曜 講 座…… 每月 1回開催の公開講座。毎回13時～16時。地域文化と財産の再発見に。
- 写 経 会…… 每月 1の日(1日、11日、21日)13時～15時般若心経写経。支度片付けは全員で。  
※3月21日は春の文化展開催のため、休会致します。
- 鎌倉流御詠歌…… 每月第1第3火曜日13時半～15時ホトケのココロを歌に乗せて 指導:高井淑子
- 手打ちうどん教室…… 現在 2クラス開講中。各クラス月1回。講師:島田辰夫先生
- いきいきヨガ…… 每月第1第3木曜日10時～11時 予約不要¥500 要ヨガマット、水分補給飲料  
講師:園部多恵子さん <https://www.instagram.com/tae.yoga/>
- リアルてらこや…… 每月第2土曜日午前中 主催:らいむぎハウス 問い合わせ090-5542-6159(水野)  
子どもたちの学習支援、居場所づくり、こども食堂。ボランティア募集中。  
raimugihouse2021@gmail.com
- 新 聞 サ ロ ン…… 每月第4土曜日13時～14時 新聞を使って自分の世界を楽しく広げましょう。  
お子様のご参加大歓迎。要予約 鹿野川喜代美 042-554-7343 090-6549-0751
- 木 彫 教 室…… 每月第2第4土曜日 13時～16時 講師:新井達矢先生 見学可能  
仏像や能面を彫ってみませんか? 月謝5,000円(道具、材料費は要別途)  
新井達矢先生ブログ <https://ameblo.jp/tapazya-1982/>
- 俳 句 教 室…… 每月1回適宜。問い合わせ:中野つたえ 042-554-2444
- 尺 八 吹 禅 の 会…… 每月第1第3月曜日 19時半～21時頃 坐禅15分、練習60分  
問い合わせ:坂井陵童 042-554-3273
- 宗禅寺将棋クラブ…… 每月第3日曜日13時半～16時半 老若男女問わずご参加下さい。お子様の  
御参加も大歓迎です。 問い合わせ:新井政昭 090-3089-3011
- お寺deこころの相談…… タロットを使用した心理セラピーです ハムサまで  
毎月第一日曜日13時～18時 要予約 090-6792-4784
- 平曲を聴く会…… 每月第2土曜日、日曜日13時～16時 平家琵琶を聴く集いです。参会費¥500  
主催:一つ目弁天会 問い合わせ:鈴木孝庸(たかつね) 090-1267-0864
- ▲介護予防体操…… 健康体操をみんなで一緒に行います。会場はみんなの家です。  
毎週金曜日14時～16時
- ▲くれよんの会…… 子育て中の親御さんの会。みんなでお話ししませんか?子どものこと、家族のこと、  
仕事のこと、そして大切な自分自身のこと。個別相談承ります。  
代表:高井綾子 090-1034-4866
- ▲ポコアポコ…… 登校拒否・不登校を考える親の会(羽村) 毎月第3土曜日10時～12時  
例会を開催中。問い合わせ:井出里美 090-9814-8752

寺子屋委員会・薬師講中・護持会・女性サンガの会 ——活動中です——

○禅センター・みんなの家 ご使用下さい □各会の会場:●宗禅寺 ○禅センター ▲みんなの家

## 土曜講座のお知らせ

地域文化を築く講座です。参加費三百円です。

### ◆第八十九回 四月二十七日(土)十三時～十五時半

・イス坐禪

・講談「新・平家物語」から

菊地玉雲 師

・中里介山を学ぶ 宗禅寺文庫長 島田秀男 先生

### ◆第九十回 五月十八日(土)十三時～十五時半

・イス坐禪

・講談「新・平家物語」から

菊地玉雲 師

・西多摩の観光事業

### ◆第九十一回 六月十五日(土)十三時～十五時半

・イス坐禪

・講談「新・平家物語」から

菊地玉雲 師

・羽村郷土博物館出張講座「羽村の歴史あれこれ」

### ◆第九十二回 七月二十七日(土)十三時～十五時半

・イス坐禪

・講談「新・平家物語」から

菊地玉雲 師

・川崎の歴史 大石氏と遠江坂

### ◆第九十三回 福生市郷土史料室 係長 青海 伸一 先生

・菊地玉雲 師

## 鎌倉禅研究会のお知らせ

鎌倉建長寺で行っている勉強会です。予約なしで、直接参加できます。

建長寺入口で入山料五〇〇円、会場で資料代

五〇〇円を納めて下さい。会場でお会いしま  
しょう。

### ◆第六回 四月十六日(火)

・食がつなぐ人・自然・地球の未来

食問題研究家 池田 希美子 先生

・古の鎌倉人の食——頼朝と食べ物その2——

鎌倉伝統食研究家 山田 雅子 先生

### ◆第一百九十六回 四月二十一日(月)

・「蘭溪道隆の語録から」

法政大学講師・建長寺研究員 彭丹 先生

・『仏日庵公物目録』における宋代禪僧の頂相

駒沢大学教授 佐藤秀孝 先生

### ◆第七回 五月十四日(火)

・考古学から見た鎌倉の食文化

鎌倉歴史交流館 大沢 泉 先生

### ◆第一百九十七回 五月二十日(月)

・鎌倉に於ける太閤検地――帰源院を元に――

・神奈川県立博物館学芸員 梶 弘人 先生

・「禅宗と風水」鶴見大学教授 鈴木 一馨 先生

### ◆第一百九十八回 六月十日(月)

・明治期居士禪の展開

・円覚寺派教学部長 蓮沼 直應 師

・西田幾多郎をめぐって

・明治大学教授 美濃部 仁 先生

### ◆第一百九十九回 七月十八日(木)

・中世人と死―臨終・葬送・亡骸のゆくえ―

・東京大学史料編纂所 太田 まり子 先生

・「日本と無門関」

・国文学研究資料館准教授 D・ディディエ 工 先生

※時間は午後一時開始、午後四時終了予定です。

### 【平家物語を平家琵琶で聴く会】

毎月第二土曜日、日曜日に宗禅寺客殿で開催  
・四月十三日十四日・五月十一日十二日  
・六月八日九日・七月十二日十三日

全て午後一時から四時頃。

演奏・鈴木孝庸 荒井今日子

本山建長寺を会場に新しい公開講座が始まりました。鎌倉の食文化を多方面から学んでいく講

座です。参加費は建長寺入山料五〇〇円、会場で

資料代として五〇〇円を納めて下さい。

## 鎌倉・食を学ぶ会 in 建長寺

鎌倉建長寺で行っている勉強会です。予約なし

しで、直接参加できます。

建長寺入口で入山料五〇〇円、会場で資料代

五〇〇円を納めて下さい。

鎌倉建長寺を会場に新しい公開講座が始まり

ました。鎌倉の食文化を多方面から学んでいく講

座です。参加費は建長寺入山料五〇〇円、会場で

資料代として五〇〇円を納めて下さい。